

第10回 武雄市まち・ひと・しごと創生推進懇話会会議録

日時：令和4年7月8日（金）

10：00～11：30

場所：6階全員協議会室

<出席委員>

中島（佐賀県農業協同組合）、江口（武雄市観光協会）、五十嵐（佐賀大学）、
坂井（武雄金融協会）、小杉（ケーブルワン）、永松（市民団体）、
庭木（女性ネットワーク）、土井（司法書士）、高尾（武雄公共職業安定所）、
亀崎（佐賀県さが創生推進課）、北川副市長

※代理：深町→松尾（武雄青年会議所）、

※欠席：梶川（武雄商工会議所）、久保（武雄市商工会）、東島（連合佐賀）、
安藤（区長会）、江越（眉山の森保全の会）、

<事務局>

企画政策課（弦巻課長、松尾係長、小柳係長、野田）

1 開会【弦巻課長】

ご多用の中、ご出席いただきありがとうございます。

只今から第10回武雄市まち・ひと・しごと創生推進懇話会を開催致します。

2 会長あいさつ【北川副市長】

2期の武雄市まち・ひと・しごと創生総合戦略については、令和2年度から5か年計画で策定しており、毎年施策の実施状況について検証している。令和2年と3年は新型コロナウイルスの感染拡大を鑑みて、書面決議としていたが、今年については会議形式で開催することとしたため、委員のそれぞれの立場からの意見をいただきたい。

令和3年8月大雨災害の影響もあり、事業については十分に実施ができない状況であったが、これまでの成果・課題を整理して、今後の展開に向けて検討を進めていきたい。

3 議題

（1）武雄市総合戦略のKPI進捗報告及び検証について

事務局より概要説明。

○質問 ●提言・意見

(小杉委員)

○地域包括ケアシステムで各町にサロン等が立ち上がっているが、元々地域ごとにあったふれあいいきいきサロンとの連携はあるのか？

A 各町によって実情に差がある。既存のサロンと提携しているところもあるが、コロナ禍もあり、協議が進んでいないところもある。お互いの協力関係がうまく働くようなシステムとなるよう、検討していきたい。

(五十嵐委員)

●佐賀市では IT 系を中心とした企業がかなり増えている。また嬉野市では旅館をサテライトオフィスとして活用している事例がある。

●影響力がある IT 系企業を誘致できれば、それに関連して他の企業が集積し、状況が大きく変わる可能性がある。

○武雄市のオフィス立地支援制度がどういうものか、その他誘致のためにどのような取り組みをしているのかお伺いしたい。

A 「オフィス立地支援制度」はオフィスの設備費の 1/2（限度額 1500 万）と雇用（一人 50 万）等について補助している。それとは別にオフィス環境整備補助金あり、整備負担額の 1/2（上限 500 万）であるが、まだ利用がない状況。市としても、雇用の幅を広げたいと考えているため、IT 系企業の誘致活動を進めている。

○防災 DX とか武雄市が重点的に取り組むべき施策に貢献してもらえそうな企業をリサーチして積極的にアプローチするべきだと思うが、取り組み状況はどうか？

A 今年 5 月に一般社団法人ソフトウェア協会と協定を結び、スマートシティ等の取り組みを進めている。ソフトウェア協会加盟企業に武雄市を現地視察いただき、この協定を企業誘致にもつなげたいと考えている。また、6 月補正予算でオフィス整備促進事業費を計上しており、今後 IT 企業の誘致、雇用増加を目指す。

○農業の担い手が不足する一方で、農業と障がい者の就労支援とのマッチング（農福連携）が盛んに行われ、就農できる障がい者が多くいることが分かってきている。農福連携で WINWIN を目指せると考えるが、武雄市として現状どういう取り組みをしているのか？

A 雇用創造協議会で様々なマッチングを検討しているが、農福連携については今まで積極的に取り組んでいないところであるため、これから研究していきたい。

（永松委員）

○総合戦略策定時は水害についてあまり考慮されていなかったと思うが、策定後に水害が起きたことにより、総合戦略の変更（防災・減災の KPI を新たな設定等）はしないのか？

A 総合戦略の補完という意味合いで「新・創造的復興プラン」を策定している。

「誰もが安心して住み続けられ、新たなにぎわいが生まれる創造的復興」を基本理念とし、治水対策等を行っていく。（「新・創造的復興プラン」をモニターに投影）

（五十嵐委員）

○地方創生の戦略は見直しができるはずなので、基本目標⑤「災害に強いまちづくり」に成果指標を追加する等手直しができるのではないか？

A 検討したい。

（庭木委員）

●女性ネットワークは高齢者が多い。先日中学生と一緒に防災関係の研修を行ったが、スピードの違いを実感した。

●高齢化が進む中、色んな人たちがいろんな場所に関わり、地域を活性化することが重要になってくと思う。

（五十嵐委員）

●指導要領が改訂され地域探求型学習が重視されているが、地域と学校の連携がないため現場の先生が対応できていない。

●学校現場を支える意味でも、学習の一貫として地域と関わる仕組みを行政から学校に提案する必要があると考える。

A 市から学校に出向いて防災教育等を行っている。庭木委員の発言のとおり、色んな人を巻き込んでいく必要性は感じているため、実施方法については改善を検討する。地域の子供たちとの交流という視点での施策は少なかったなので、教育委員会とも協議する必要があると考える。

（江口委員）

●新型コロナウイルス感染症の影響により、高齢の方たちの外出の機会やふれあいの機会が失われてしまった。

●このままイベント等が開催されない状態が続くと、再開する事が難しくなるため、感染対策と事業実施を両立する方法を具体的に提案していく必要があると考える。

●さらに、休止が続いた事でイベントの存在自体を知らない人がいると思うため、そういう人たちにも参加してもらえよう、周知等検討する必要がある。

A 地域の方が参加しやすいように、リアルだけでなくスマホ等も活用するなど、実施方法について工夫していく必要があると考える。

- 朝食を3回抜く人の数の調査が終了したとのことだが、どうやって調査するのか疑問であった。
 - 市が目標を定めても、市民の意識がそこに向かっていないといけないため、市民の興味を引くような、アプリを活用して集計するとか、意識づけを高める方法も考えてみてはどうだろうか。
 - 観光集客については、新幹線開業に向けて嬉野・長崎等の取り組みを参考にしながら、広域での連携を模索していくことが大切だと思う。
- A 広域連携については、有田・嬉野と連携協定を結んで事業を実施している。長崎県との事業交流、情報収集についても進め、市民が新幹線開業の効果が実感できるようにしたい。

(会長)

亀崎委員は他の自治体の状況もご存知かと思うが、武雄市の状況についてどう思うか？

(亀崎委員)

- 他市町の懇話会にも出席しているが、武雄市のみなさんは活発に発言されている。
- 武雄市は災害に関する施策の打ち方が非常に早いと感じる。
- コロナ禍で全県的に総合戦略の達成状況が鈍化している中で、どういう施策をしていくかが重要になってくると考える。

(2) 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の報告・検証について
事務局より概要説明。

(五十嵐委員)

- 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用した各事業が総合戦略のどこに位置づけられているのか？もともとは「地方創生」の枠組みの交付金であるため、どこを補強する財源として活用されているのかを明確にする必要があると考える。
- A 総合戦略を補完する形で交付金を活用している。総合戦略の最終目標は市民の幸福であるため、コロナ交付金については、間接的に市民の幸福に繋がるような考えで立案している。

(会長)

佐賀県としての見解はどうか？

(亀崎委員)

- 新型コロナウイルス対応地方創生臨時交付金の事業実施状況については、効果の検証に関して広く透明性を担保した手法で公表を行う旨、内閣府から通達があっているが詳細な方法は示されていない。

(坂井委員)

- ゼロゼロ融資が3年前に始まった。3年間の実質無利子期間がもうすぐ終わり、これから返済が始まる。これから、新たに借入をしてまで事業継続はしないという事業者の声も聞く。
- 事業継続のための補助金の活用ができれば、事業者の安心につながるのではないか。
- A 観光関係についてはGOTO武雄キャンペーン等、コロナ感染拡大もあり、なかなか実行できていなかったが、今後の実施に向けて検討している。少しでも不安を軽減できるよう、素早く対応できるようにしたい。

(永松委員)

- コロナ禍でも、新規出店をされる方がいると思うが、そういった方への事業支援はあるのか？
頑張ろうとしている方を後押しするような明るいお金の使い方もあっていいのではないか？

(庭木委員)

- 温泉通りが寂しくなっている。支援をして、空き店舗を埋めていかないと、観光地として厳しいのではないか？
- A 武雄市独自の支援として、温泉通りを含めた地域を指定して空き店舗活用事業を行っている。改装経費等の2/3(上限100万)を補助している。事業支援を行っていることに関して様々な手段で広報を行っているが、もっと伝わる工夫をしないといけないと感じる。同時に事業者のモチベーションが上がるような制度設計を検討していきたい。

(五十嵐委員)

- 空き店舗活用を推進するためには、人と組織をサポートする中間支援組織(NPO法人、地域おこし協力隊など)が不可欠である。
- 有田、嬉野、唐津などでは空き家・空き店舗を活用するためのNPOが立ち上がっているが、このように人をうまく活用するような仕組みがないと、制度があってもなかなか活用されない。
- こういうところに交付金が使えないかなど、戦略の中で考え直す必要があるのではないか。
- A 今行っている事業等の検証も含めて、今後対応をしていきたい。

(坂井委員)

- 温泉通りの話が出たが、新規事業の融資では駐車場がないことがネックになる場合がある。
- 武雄市では職員駐車場を開放しているが、市で所有している他の土地を、有料でもいいので観光目的で駐車場として活用することも考えられるのではないか。
- A 頂いたご意見を参考に検討したい。

(江口委員)

- コロナの影響を取り上げたメディアを見ていると、想像もできないような苦勞をされている人たちがたくさんいる。
 - コロナ交付金の使い方等、行政の支援の在り方に関しては、相手の立場を知ろうとし、寄り添う姿勢が必要になるのではないか。
- A 地域の方の声も聴きながら、困っている人たちに対して有効に使えるように、交付金の活用を検討していきたい。

(土井委員)

- コロナ交付金でリモートワークが可能な企業の社宅等を誘致したりできないのか？
- A 可能だが、算入できる経費とできない経費があると思われる。

(五十嵐委員)

- ニーズを確認した上で慎重に行う必要がある。入居がなかった場合は交付金を返還することになる。

(3) その他

特になし

4 閉会

本日頂いたご意見については、今後の施策の参考にしていきたい。
今後とも皆様のご協力を宜しくお願い致します。

＜武雄市まち・ひと・しごと創生総合戦略 KPI進捗状況調査＞

武雄市まち・ひと・しごと創生総合戦略 策定値						
政策	施策	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値	データ所管課	具体的事業
基本目標 ① 仕事を創出し、所得を上げる	総論	新規求人数	8,237人 (H30年度)	9,000人 (R6年度)	商工観光課	
	具体的施策(1) 企業誘致の積極的な推進	企業誘致数	2社 (H30年度)	5社 (R2年度～R6年度)	企業立地課	・企業、学校誘致事業 ・新工業団地整備事業 ・企業誘致優遇制度 ・企業誘致促進特区事業
		立地協定締結企業の正社員雇用者数	11人 (R元年度)	50人 (R2年度～R6年度)	企業立地課	
	具体的施策(2) 中小企業支援、企業・創業等支援	創業支援相談件数	52件 (H30年度)	50件 (R6年度)	商工観光課	・特産品開発、販路開拓事業 ・創業支援事業 ・中小企業融資事業 ・商工業振興事業 ・商店街等空き店舗活用事業 ・まちなみ創造事業 ・伝統産業支援事業 ・域外消費促進事業 ・地域雇用創造事業
		創業件数	4件 (H30年度)	15件 (R6年度)	商工観光課	
	具体的施策(3) 就労支援、人材の確保・育成	市の協議会・審議会に占める女性の割合	33.3% (H30年度)	40% (R6年度)	男女参画課	・男女共同参画啓発事業
		就職件数	1,991件 (H30年度)	2,100件 (R6年度)	商工観光課	
	具体的施策(4) 魅力ある農林業の振興	農業算出額	517千円 (H29年度)	540千円 (R6年度)	農林課	・新規農業者支援事業 ・6次産業推進事業 ・集落営農組織の経営発展事業 ・特用林産物生産物拡大事業 ・園芸振興事業 ・畜産振興事業 ・有害鳥獣対策事業 ・お茶生産振興事業 ・新規作物産地化推進事業 ・地産地消推進事業 ・森林保全事業 ・特産品のブランド化事業 ・生産体制確立支援事業 ・里山資本再発見、創発事業 ・里山再生支援事業
		有害鳥獣の農作物被害額	139万円 (H30年度)	120万円 (R5年度)	農林課	
		青年等就農計画数	5人 (R元年度)	15人 (R2～R6年度)	農林課	
		認定農業者数	118人 (R元年度)	120人 (R6年度)	農林課	

実績値					
R2年度	R3年度	事業概要及び効果	追加事業	KPI達成に向けての課題	特記事項
7,751人 (R元年度)	6,853人 (R2年度)				HW年報 (毎年6,7月頃公表)
0社 (R2年度)	0社 (R3年度)	・新工業団地整備事業 ・企業誘致事業 ・企業誘致優遇制度	・オフィス立地支援制度の創設【R2】	新工業団地整備事業において、法面崩壊により造成完了・分譲開始時期が遅れることが予想される。また、追加工事による分譲単価の上昇が予想される。	・できるだけ早い時期に新工業団地の分譲開始を目指す。 ・西九州のハブ都市としてオフィス誘致について注力する。
0人 (R2年度)	10人 (R3年度)				
66件 (R2年度)	34件 (R3年度)	・創業支援事業 ・商店街等空き店舗活用事業による事業所の新規創業による地域活性化及び雇用の創出		創業塾など創業希望者への支援についての周知	
10件 (R2年度)	5件 (R3年度)	・創業支援事業 ・商店街等空き店舗活用事業による事業所の新規創業による地域活性化及び雇用の創出		創業相談窓口訪問者や創業塾利用者に対するフォローアップ	
34.3 (R2年度)	35.7 (R3年度)	啓発イベント実施、広報、HP等での啓発で男女共同参画意識の醸成		啓発活動の継続	34.4(R元年度)
1,857人 (R元年度)	1,629人 (R2年度)	武雄市地域雇用創造協議会による官民一体となった ・実践型地域雇用創造事業 ・自主事業 による市内雇用創出及びマッチング		事業への参加求職者や事業者を増やしきめ細かいマッチングを実施	ハローワーク年報により計上 例年6月頃計上
519千万円 (令和元年)	574千万円 (令和2年)	・県補助金、国庫補助金等を活用し、園芸作物や米麦大豆、畜産等に対する支援を行う。 (R2補助額(国県市計):277,358千円)			
189万円 (R元年度)	529万円 (R2年度)	・捕獲・防除等の対策を行うことにより、被害額を低減し、農家の生産意欲の維持を図る。 ・イノシシ捕獲頭数 2,634頭(R2年度)			R3の実績値については県がR4.9月頃公表
10人 (R2年度)	15人 (R3年度)	・新規就農者支援事業 ・若手農業者の確保・育成を図ること で、地域や生産部会の担い手確保につながった。			
117人 (R2年度)	111人 (R3年度)	・認定農業者支援事業(研修等) ・高齢化等の理由により減少傾向にあるため、後継者の確保に努めたい。			

武雄市まち・ひと・しごと創生総合戦略 策定値						
政策	施策	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値	データ所管課	具体的事業
基本目標 ② 最高の子育て・教育環境をつくる	総論	若者人口率	13.7% (R元年度)	13.7% (R6年度)	企画政策課	
	具体的施策(1) 子育て・家庭支援	産後うつ病のリスクの高い母親の割合(EPDS9点以上)	9.7% (H30年度)	0% (R6年度)	健康課	・婚活支援事業 ・不妊治療費助成事業 ・妊婦健診事業 ・乳幼児健診事業 ・子育て世代包括支援センター事業
		家庭児童相談件数	456人 (H30年度)	450人 (R6年度)	福祉課	・予防接種事業 ・小児医療体制の充実事業 ・子どもの医療費助成事業 ・ひとり親・多子家庭支援事業 ・子どもの発達支援事業 ・子ども家庭総合支援拠点事業
		病児・病後児保育利用者数	245人 (H30年度)	850人 (R6年度)	こども未来課	・子育て家庭支援事業 ・子育て総合支援センター事業 ・病児病後児保育事業 ・ファミリーサポート事業 ・保育所・認定こども園整備事業
		放課後児童クラブを利用した保護者の満足度	97% (H30年度)	98% (R6年度)	こども未来課	・延長保育事業 ・一時預かり事業 ・障害児保育事業 ・実費徴収に伴う補足給付を行う事業(保育) ・放課後児童クラブ整備事業 ・放課後児童健全育成事業 ・放課後子ども教室事業 ・子どもの貧困対策事業
		こどもの発達相談件数	延182人 (H30年度)	延216人 (R6年度)	健康課	・こども図書館事業 ・公園整備事業 ・定住環境整備事業 ・定住特区補助金事業 ・武雄競輪場整備事業 ・福岡、長崎等通勤通学補助事業
	具体的施策(2)子どもが主人公の教育環境整備	子どもの学習意欲向上度(とても楽しめと少し楽しみを足した割合)	88% (R元年度)	90% (R6年度)	学校教育課	・ICT教育推進事業 ・ALT 活用事業 ・不登校対策支援事業 ・学校支援地域本部、コミュニティスクール事業 ・部活動指導員活用事業 ・新たな学校づくり推進事業 ・放課後等補充学習事業 ・小中学校の体験活動の充実事業
		子どもの地域行事参加割合	71% (R元年度)	75% (R6年度)	学校教育課	・高校生のまちづくり事業 ・わんぱくスクール、ジュニアリーダー育成事業 ・武雄市、雄武町児童交流団派遣事業 ・青少年育成市民会議「たけおっ子“絆”プロジェクト！」事業

実績値					
R2年度	R3年度	事業概要及び効果	追加事業	KPI達成に向けての課題	特記事項
13.7% (R2年度)	13.6%				各年度12.31現在
14.5% (R2年度)	11.7% (R3年度)	産後うつの早期発見・支援のために、出生届時に産後うつアンケートを渡し、産後2週間後の返信により産婦の状態を把握。		・産後うつ(エジンバラ)アンケートの返信時期が遅い場合があり、産後2週間頃に回答し早めに返信してもらうよう周知する。 ・9点以上の産婦については、早めの状況把握に努める。	13.9%(R元年度)
463人 (R2年度)	675人 (R3年度)	<事業概要> 虐待や不登校、育児放棄等の問題がある中、家庭における児童養育その他家庭児童福祉の向上を図るため、関係機関と連携しながら、相談及び指導に当たる。 <効果> 県児童相談所や教育現場、警察等と連携を図りながら支援に当たることができた。	なし	令和3年度から支援体制を強化し「武雄市子ども家庭総合支援拠点」を設置。関係機関への周知を図り、情報共有することで、対象ケースのより良い支援につなげる。	500人(R元年度)
267人 (R2年度)	473人 (R3年度)	(利用者内訳) 武雄市病児・病後児保育施設利用者 380人 嬉野市・江北町施設利用者 93人 ・コロナ禍であり、体調不良の際に自宅療養をされるケースが増えたため利用者が減った(R2)。 ・病気等で集団保育が困難な児童を、就労などにより家庭で保育できない保護者に代わって、病児・病後児保育施設において一時的に保育。保護者の子育て・就労の両立の支援を図った。			422人(R元年度)
96% (R2年度)	97% (R3年度)	保護者が就労等で昼間家庭にいない児童に居場所を与えた。放課後及び長期休業中における、こどもの発達段階に応じたこどもの主体的な遊や生活を尊重し、育成支援を図った。			97%(R元年度)
延216人 (R2年度)	187人 (R3年度)	健診や相談から、ことばの遅れや発達障害の疑いのある児に対し、専門の臨床心理士により相談・検査・指導を実施			延202人(R元年度)
88.3% (R2年度)	90.90%	・研究指定校事業では、指定校を中心に新学習指導要領を踏まえた授業改善が進み、児童生徒が主体的に取り組むようになった。 ・武雄市教育研究会では、研究授業を小中とともに行い、新学習指導要領に沿った授業改善を行った。 ・ALT活用事業では、多文化に触れる機会が増えた。	・学習用端末(1人1台)と電子黒板の更新【R2】 ・オンライン授業授業の環境整備(ポケットwifiの整備)【R2】		
59.6% (R2年度)	61.5% (R3年度)	新型コロナウイルス感染症により中止や縮小された行事もあったが、子どもたちへの地域行事への積極的な参加を促す呼びかけは継続しており、少しずつ参加者も増加している。			

武雄市まち・ひと・しごと創生総合戦略 策定値						
政策	施策	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値	データ所管課	具体的事業
基本目標 ③ 生きがいと健康を実感できるまちをつくる	総論	健康寿命	男性79.47歳 女性85.40歳 (H28年度) R元年度算定分	男性80.47歳 女性86.40歳 (R2年度) R6年度算定分	健康課	
	具体的施策(1)生きがいづくり推進	成人対象講座参加者数	2,258人 (H30年度)	2,700人 (R6年度)	生涯学習課	・高齢者大学助成事業 ・シルバー人材センター支援事業 ・里山再生支援事業 ・武雄版里山資本再発見・創発事業 ・公民館講座事業 ・公民館サークル活動支援事業
		高齢者大学参加者数	134人 (H30年度)	200人 (R6年度)	生涯学習課	・老人クラブ活動等事業 ・人権啓発活動推進事業 ・生活困窮者自立支援事業 (自立相談、家計改善、就労準備支援) ・男女共同参画推進委託事業
		生活困窮者自立支援新規対応件数	105人 (H30年度)	150人 (R6年度)	福祉課	
	具体的施策(2)健康づくりの推進	国保の特定健診率	51.4% (H30年度)	60% (R6年度)	健康課	・健康ポイント事業 ・国保の特定健診保健指導事業
		週3回以上朝食を抜く人の数	10.9% (H30年度)	5% (R6年度)	健康課	・がん検診事業 ・さわやかスポーツクラブ事業 ・食生活改善推進協議会活動事業
		メタボリックシンドロームの該当者及び予備軍の割合	30.1% (H30年度)	25% (R6年度)	健康課	・食を通じた健康づくり事業
	具体的施策(3)介護・高齢者福祉の推進	認知症サポーター登録者数	5,918人 (H30年度)	10,000人 (R6年度)	健康課	・認知症対策事業 ・生活支援体制整備事業 ・在宅医療介護連携推進事業 ・介護予防事業 ・介護保険事業 ・在宅福祉事業
		ふれあいいきいきサロン開設数	124箇所 (H30年度)	182箇所 (R6年度)	健康課	
		介護予防市民活動グループ数	7箇所 (H30年度)	42箇所 (R6年度)	健康課	
		地域包括ケアシステム構築のための生活支援サポーター登録者数	0人 (H30年度)	200人 (R6年度)	健康課	
	具体的施策(4)障がい福祉の推進	障がい者(児)が自立した生活をするためのサービス利用者数	717人 (H30年度)	860人 (R6年度)	福祉課	・障がい福祉サービス事業 ・自立支援医療費助成事業 ・福祉タクシー助成事業 ・特別障がい者手当等給付事業
		就労している障がい者の数	659人 (H30年度)	670人 (R6年度)	福祉課	・重度心身障がい児福祉年金支給 ・重度心身障がい者医療費助成事業 ・地域生活支援事業

実績値					
R2年度	R3年度	事業概要及び効果	追加事業	KPI達成に向けての課題	特記事項
男性79.75歳 女性85.98歳 (H29年度)					・国,県のデータが揃ってから算定される
1,737人 (R2年度)	1,620人	・各町公民館において、健康講座やスマホ講座、高齢者対象講座等を実施。コロナの影響で、中止や回数減となった講座がある。 ・学習機会を提供し、市民の教養の向上、健康の増進、生活文化の振興、社会福祉の増進につながった。	—	・地域住民の要望に応じた講座内容の充実が必要。 ・コロナ過のためか参加者が少なくなっている。今後受け入れ方の対策が必要になってくる可能性がある。	2,368人(R元年度)
142人 (R2年度)	158人	・高齢者大学(武雄市民大学) ・高齢者の生涯学習の場を提供することで、生きがいづくり、健康づくりにつながった。	—	・今後、高齢者の人口増加に備え、さらなる受け皿の確保が必要。	155人(R元年度)
150人 (R2年度)	116人 (R3年度)	生活困窮者について、生活保護になることなく自立した生活を行うことに役立っている			141人(R元年度) 武雄市社会福祉協議会生活自立支援センターへの委託事業
43.7% (R2年度)	40.60%	武雄市国保40歳～74歳に対し、健診を実施	なし	水害やコロナでの受診控えがあり受診率が上がらない。	52.5% (R元年度)
			なし		調査終了
35.3% (R2年度)	58.10%	保健指導対象者に対し、結果説明会や訪問による保健指導を実施。	なし	コロナや水害等により訪問指導が行いにくい期間がある。	65.7%(R元年度)
6,686人 (R2年度)	7,274人 (R3年度)	認知症についての正しい知識と理解を持ち、手助けする認知症サポーターの養成講座を実施		多くの方へ周知を図るため、広報等の方法を検討していく。	6,521人(R元年度末)
134箇所 (R2年度)	134箇所 (R3年度)	住み慣れた地域での交流を通して、孤独感の解消、健康維持、生活意欲の向上を図り、福祉コミュニティの形成を推進する。サロンで認知症についての相談に認知症地域支援推進員として対応されたり、サロンが地域の課題を吸い上げる場として機能しているところも増えてきている。		既存のサロンは新規参加者が増えにくく、数年経つと高齢化が進み運営が難しくなり廃止となる。	136箇所(R元年度)
20箇所 (R2年度)	23箇所 (R3年度)	自主グループに対して理学療法士等の専門職が、定期的な体力測定や講話を行うことで、モチベーションを維持し、活動が継続できるよう支援する。		コロナウィルス感染症流行の中で、いかに対策をしながら活動を行っていくか検討が必要である。	17箇所(R元年度) 積み上げの数 100歳体操のG
73人 (R2年度)	95人 (R3年度)	地域住民同士の助け合いや支え合いの体制整備のため、研修の受講者に生活支援サポーターとして登録してもらう。高齢者の社会参加及び生活支援や介護予防の充実が図られる。		生活支援サポーター登録のためのサポーター養成講座を、各町拠点等で少人数で行う(感染症対策)	0人(R元年度)
768人 (R2年度)	811人 (R3年度)	・障がいの程度や生活状況に合わせた福祉サービスの提供に取り組んだ。 ・事業等の周知を含め、必要な障害福祉サービスに関わる支援を行った結果、利用者が増えた。			769人(R元年度)
666人 (R2年度)	661人 (R3年度)	・障がい者の雇用状況の把握、事業所への意向調査、就職面接会の実施、障がい者雇用に関する啓発に取り組んだ。			671人(R元年度)

武雄市まち・ひと・しごと創生総合戦略 策定値						
政策	施策	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値	データ所管課	具体的事業
基本目標 ④ 人と人との交流が生まれ、心がつながるまちをつくる	総論	交流人口	194万人 (H30年度)	220万人 (R6年度)	商工観光課	
	具体的施策(1)国内・海外誘客	観光消費額	120億 (H30年度)	135億円 (R6年度)	商工観光課	・新幹線活用プロジェクト事業 ・高架下等活用事業 ・武雄温泉駅前広場整備事業 ・ナイトタイムエコノミー事業 ・広域観光連携事業 ・地域資源を活用した観光客誘致事業 ・地域資源を活用したまちあるき事業 ・体験型ツーリズム事業 ・観光振興・PR事業 ・各地域のイベント支援事業 ・観光コンシェルジュ事業 ・武雄温泉楼門朝市事業 ・武雄温泉保養村資源活用事業 ・九州オルレコース整備事業 ・海外観光客受入整備事業 ・海外観光エージェント招聘事業 ・外国人観光受入環境整備事業(Wi-fi整備、サイン多言語化、免税店設置など)
		外国人観光客数	28,787人 (H30年度)	40,000人 (R6年度)	商工観光課	
	具体的施策(2)効果的な情報の発信	定住世帯数	19世帯 (H30年度)	35世帯 (R6年度)	ハブ都市・新幹線課	・定住特区補助金、定住支援金事業 ・空き家、空き地バンク新規物件登録事業 ・定住環境整備事業 ・東京圏移住支援事業
		WEB閲覧件数	1,553,537件 (H30年度)	2,000,000件 (R6年度)	広報課	・武雄ブランド事業
	具体的施策(3)文化・スポーツの振興	スポーツ大会、合宿等の宿泊者数	2,147人 (H30年度)	3,000人 (R6年度)	スポーツ課	
		スポーツイベント等への参加人数	4,909人 (H30年度)	6,000人 (R6年度)	スポーツ課	・市民のスポーツ参画事業 ・スポーツ施設整備事業 ・競輪場を活用したスポーツ活性化事業 ・スポーツ大会、合宿等誘致事業 ・プロチームの進出、誘致促進事業
		歴史資料館企画展への来場者数	30,000人 (H28～H30年度平均)	33,000人 (R6年度)	文化課	・文化財保存活用事業 ・歴史資料館企画展事業 ・伝統芸能継承事業 ・図書館事業 ・自主文化事業 ・公園活用促進事業

実績値					
R2年度	R3年度	事業概要及び効果	追加事業	KPI達成に向けての課題	特記事項
176万人 (R元年)	121万人 (R2年)				
109億 (R元年度)	92億 (R2年)	・R2タケさんぼ朝日コース開設(地域資源活用) ・九州インバウンドオンライン商談会参加 ・春まつり、秋祭り支援 ・たけナビ(広域観光案内) ・九州オルレ武雄コース維持管理、親子でオルレ、クリスマスオルレ開催(オルレ活用) ・観光客誘致対策助成(CV、修学旅行等のあっせん) ・観光客誘致対策助成(誘客あっせん) ・観光客チャレンジ補助(日帰り旅行あっせん) ・官民連携まちなか再生(回遊性を高める公共空間活用に向けた民間支援) ・三市町連携事業(有田町、嬉野市) ・外国人受入れ環境整備(サイン多言語化、トイレ洋式化等)	コロナ禍における観光関連産業支援事業【R2】 ・武雄嬉野温泉1億円キャンペーン ・武雄温泉お泊まり半額キャンペーン		
27,900人 (R元年度)	3,300人 (R2年)				
33世帯 (R2年度)	39世帯 (R3年度)	・移住定住の促進を行い、地域の活性化を図る。	多拠点居住交流促進事業【R2】 同居・近居移住支援給付事業【R3】	予算とKPIが比例する	
2,176,906件 (R2年度)	2,501,736件 (R3年度)	閲覧者目線にたった情報の作成を行うとともに、分かり易い導線を意識した情報配置を行った。また、市民の関心が高い新型コロナウイルス関連特設ページ、及びワクチン接種特設ページを設置し、タイムリーな情報提供を行った。	・新型コロナウイルス関連ページの設置【R2】 ・シティプロモーションサイトの再構築【R2】 ・新幹線特設ページの再構築【R2】		既に目標値を達成しているが、閲覧数増の要因として、新型コロナウイルス関連情報へのアクセス増が影響していると推察される。コロナ終息後、閲覧数が減少しないよう、コンテンツの更なる充実を図る必要がある。
293人 (R2年度)	448人	・観光誘致助成事業による大会 ・市誘致事業(ラクロスフレッシュマンズ'キャンプ、近県交流寿スーパースター軟式野球選手権大会)はコロナの影響で中止		新球場・新体育館オープン、国スポ・全障スポ開催を活かした効果的な営業・情報発信。	2,314人(R元年度)
1,127人 (R2年度)	1,679人	・体育協会主催のイベント ・市主催イベント(健康・応援村、関西大学交流事業)はコロナの影響で中止	・ありがとつ白岩球場 ・サガン鳥栖サッカー教室 ・ICE-T交流会 ・硬式テニス教室 ・ズイフト体験会 ・武雄市スポーツコミッション設立シンポジウム ・障がい者スポーツ大会支援	全世代が参加できるイベントの実施・企画。新球場を活用した多種目のスポーツイベント実施。	4,294人(R元年度)
17,266人 (R2年度)	26,880人 (R3年度)	○企画展内容 「スポーツの輝き 栄光の記憶と未来への希望」 4/24～5/23 来館者5,795人 「武雄の武」 7/31～9/5 来館者6,679人 「武雄から世界へ～岩倉使節団副使・山口尚芳を知ってますか?～」 10/16～11/21 来館者9,432人 「伝染病と闘う～種痘の導入と武雄領の医学～」 1/29・30、2/11～3/6 来館者4,974人	・市内小学校6年生「武雄から世界へ」観覧 ・武雄公民館主催こども歴史ウォーク【R3】 ・「JR九州ウォーキング2021秋編」連携事業【R3】 ・シンポジウム「実はすごい武雄の歴史!!幕末の歴史から武雄の魅力再発見」【R3】	蘭学・企画展示室は重要文化財展示エリアであることから展示環境保持のため、開催に当たっては常駐者の配置が必須である。このため、開催時間・期間の延長には経費がかさむ。	27,397人(R元年度) 8月11日からの大雨による被害及び新型コロナ感染症拡大防止対策のため、企画展期間が短縮されるなどの影響があり、令和2年度に引き続き、来場者数が伸び悩んだ。

武雄市まち・ひと・しごと創生総合戦略 策定値						
政策	施策	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値	データ所管課	具体的事業
基本目標 ⑤ 災害に強く、安心して心豊かに暮らす環境をつくる	総論	人口の社会増減数	△96人 (H26～H30平均)	△48人 (R6年度)	市民課	
	具体的施策(1) 災害に強いまちづくり	自主防災訓練実施団体数	10団体 (H30年度)	50団体 (R6年度)	防災・減災課	・防災情報発信システム構築事業 ・防災アプリ構築事業 ・自主防災組織支援事業 ・ハザードマップ整備事業 ・浸水予測システム構築事業 ・国土強靱化推進事業 ・がんばる地域応援事業 ・伝統芸能継承事業 ・CSO活動助成事業
		避難行動要支援者個別計画策定率	59% (H30年度)	100% (R6年度)	福祉課	・対話の機会創出事業 ・国際交流事業 ・多文化共生のまちづくり事業 ・地域コミュニティ活性化事業 ・生涯学習まちづくり出前講座 ・市民協働活動促進事業 ・青少年育成市民会議「たけおっ子“絆”プロジェクト！」事業
		汚水処理人口普及率	66.7% (H30年度)	76.0% (R6年度)	下水道課	・市民の手続き利便向上事業 ・防災システム構築事業 ・汚水施設整備事業 ・下水道整備事業(汚水対策、雨水対策) ・環境施策の推進事業 ・総合環境対策事業 ・廃棄物処理、減量等事業 ・都市計画道路整備事業 ・主要市道整備事業
	具体的施策(2) 暮らしやすい住環境の整備	市道の改良率	76.8% (H29年度)	80.0% (R6年度)	建設課	・一般市道整備事業 ・治水対策事業 ・空き家、空き地対策事業 ・中古住宅の流通促進事業 ・周辺部住宅整備事業 ・里山資本再発見、創発事業 ・里山再生支援事業 ・公園活用促進事業
		空き家・空き地バンク登録数	16件 (H30年度)	20件 (R6年度)	建築住宅課	
	具体的施策(3) 地域の移動手段の確保	循環バス・みんなのバス等の利用者数	26,247人 (H30年度)	27,000人 (R6年度)	企画政策課	・循環バス運行事業 ・生活交通路線維持事業 ・コミュニティバス等運行事業 ・廃止路線代替バス運行事業 ・地方バス路線運行事業 ・自家用有償運送等事業

実績値					
R2年度	R3年度	事業概要及び効果	追加事業	KPI達成に向けての課題	特記事項
△22人 (R2年度)	△155人 (R3年度)				
30団体 (R2年度)	3団体 (R3年度)	訓練内訳 プッシュ型出前講座 3区 ・戸別受信機の推進 ・防災アプリたけぼうの推進 ・講話 自主防災組織、婦人会等 効果 戸別受信機、防災アプリたけぼうの普及を図り、災害に対する事前準備及び地域防災力の向上		・8月11日からの大雨による災害の対応及びコロナ禍のため、予定していたプッシュ型出前講座が実施できなかった。 ・未実施の自主防災組織へのプッシュ型出前講座は次年度へ繰り越す。	5団体(R元年度) 30団体(R2年度)
59.7% (R2年度)	59.2% (R3年度)	(事業概要) 避難支援体制の整備を行い、災害時の要支援者の避難誘導、安否確認等に活用。 (効果) 名簿登録者のうち、同意を得ている者については、民生委員・消防等関係者にあらかじめ情報を提供し、平時より協力体制の整備を行っている。 同意を得ていない者についても、台帳を整備し、有事の際は活用する。	・避難行動要支援者訪問調査【R2～R4】	R3.5災害対策基本法改正により、実効性のある計画にするため福祉専門職及び支援関係者参加による作成が必要となった。	訪問調査で真に避難支援が必要な方の精査を行っている。
69.53% (R2.3月)	70.46% (R3.3月)	○下水道整備事業(汚水対策) 【公共下水道事業】 武雄町の一部を公共下水道処理区域とし、終末処理場の設置および管渠布設を行うことで汚水処理を促進し、生活環境の向上や水質保全を図る。 ○汚水施設整備事業 【市営浄化槽事業】 公共下水道処理区域以外の市内全域を対象に、市が管理する浄化槽を設置することで汚水処理を促進し、生活環境の向上や水質保全を図る。	なし	目標値は69.9%であり、目標値を上回ってはいるが、昨年度より伸び率は落ちている。 今後も引き続き確実に整備推進を図れるよう取り組んでいく。	3/31を基準日として、毎年5月中旬頃に集計している。
77.0% (R元年度)	77.2% (R2年度)	地域間を結ぶ幹線道路の整備及び局部改良を実施する。この整備により、道路幅員・交差点改良、歩道設置、視距改良等により地域の利便性・安全性の確保と道路環境の改善を図っていく ・利用者の利便性の向上と安全性の確保を図る。 ・交通事故の抑制 ・道路機能の安定した維持管理。		予算の確保	
13件 (R2年度)	12件 (R3年度)	空き家・空き地バンクの登録を推進し、定住促進による地域活性化を図る。			
22,915人 (R2年度)	24,987人 (R3年度)	ほんわカー 7町 13路線 (4月まで 4町 12路線) 循環バス 1路線 (4月まで 2路線)	・東川登町で実証運行	利用者増へ向け、広報周知の強化等を図る必要がある。	R3.4 コミュニティバス名変更 みんなのバス→ ほんわカー

新型コロナウイルス対応地方創生臨時交付金活用実績（R4.6.23現在）

■武雄市配分額

配分額総額 1,787,933千円(R2.7.8より9回に分けて交付)

【R2、R3年度事業へ充当】1,253,411千円

【R4年度補正（R3年度内示分）】302,916千円 【R4年度内示分】231,606千円

■R2～3年度事業実績（繰越事業含む） 実績予定額 1,253,411千円

1 感染拡大防止の徹底 218,378,517円

事業名	担当課	金額	状況
医療福祉施設等の感染症対策	健康課	8,022,267	R2
公共空間安全・安心確保事業 （マスク・消毒液・体温計等の消耗品購入、空気清浄機・加湿器、図書消毒器、紫外線照射装置等の備品購入、庁外テレワーク環境整備、手洗い場・トイレ改修等）	資産活用課、広報課、スポーツ課、健康課 教育総務課、学校教育課 文化課、生涯学習課 防災・減災課、公園課 商工観光課	79,367,329	R2
市民へのチラシによる啓発事業	健康課	1,007,600	R2
在宅福祉事業（認知症対策放送委託）	健康課	773,520	R2
休日急患センター感染症対策整備事業	健康課	3,219,260	R2
武雄市宅配ボックス購入費補助金交付事業	環境課	2,971,000	R2
環境衛生事業における感染予防対策事業	環境課	984,515	R2
国庫事業の市負担への補填 （子ども子育て支援交付金、学校保健特別対策事業費補助金、障害者総合支援事業費補助金）	こども未来課 学校教育課 福祉課	7,470,440	R2
防災関連事業 （避難所の備品や備蓄品等整備）	防災・減災課	15,879,000	R2
防災関連事業 （避難所の備品や備蓄品等整備、防災アプリ構築）	防災・減災課	10,149,689	R2繰越
証明書コンビニ交付サービス事業	市民課	8,360,000	R2繰越
若木公民館避難路対策事業	建設課	5,615,500	R2繰越
保育関連 感染症対策経費補助事業	こども未来課	3,321,000	R3
集団検診会場、物産まつり会場における感染予防対策 （サーモカメラ購入、仮設テント賃料、感染対策業務委託費等）	健康課、商工観光課	1,780,929	R3
検査関連事業（PCR検査費用助成、抗原検査キット備蓄）	健康課、防災減災課	16,232,268	R3
公共空間安全・安心確保事業 （避難所、小中学校、トイレ、手洗い場等）	資産活用課、農林課 生涯学習課、スポーツ課 ハブ都市・新幹線課	53,040,262	R3
新型コロナ感染対策備品購入（マスク、消毒液等）	健康課	183,938	R3

2 市民生活への支援 223,225,680円

事業名	担当課	金額	状況
シティプロモーションコンテンツ充実事業	広報課	1,171,500	R2
宅配タクシー運行事業	企画政策課	825,790	R2
武雄市立学校修学旅行キャンセル料助成事業	学校教育課	110,000	R2
集団健診における感染予防対策事業	健康課	2,543,997	R2
文化活動発表の場づくり事業	文化課	363,855	R2
スポーツ環境整備事業（障がい者用備品等購入、夜間照明助成）	スポーツ課	1,560,065	R2
成人式における新型コロナウイルス感染防止対策	生涯学習課	459,165	R2
生活福祉支援金事業	福祉課	10,545,000	R2
地域の絆給付金	市民協働課	102,155,600	R2
交通事業者事業継続支援事業	企画政策課	8,780,000	R2
コロナに負けないおやこ応援事業	健康課	15,337,710	R2
コロナに負けないおやこ応援事業	健康課	2,020,000	R2繰越
小中学校修学旅行キャンセル料補助事業	学校教育課	31,350	R3
食品ロス対策事業	環境課	593,574	R3
武雄市若者エール給付金事業	新型コロナ総合相談室	76,728,074	R3

3 地域経済の回復と活性化 494,003,661円

事業名	担当課	金額	状況
事業者支援（新規事業応援補助、農家応援パッケージ、窯業支援、持続化給付金）	商工観光課、農林課	149,345,196	R2
プレミアム商品券事業	商工観光課	49,914,200	R2
新生活様式導入支援事業	商工観光課	51,957,000	R2
GoTo武雄キャンペーン事業	商工観光課	22,200,000	R2
GoTo武雄キャンペーン事業	商工観光課	23,339,441	R2繰越
プレミアム付商品券	商工観光課	86,071,239	R3
ごみ処理し尿汲み取り事業者支援	環境課	7,200,000	R3
武雄版持続化給付金	商工観光課	98,215,000	R3
観光関連事業（観光宣伝活動、宿泊施設魅力向上支援）	商工観光課	5,761,585	R3

4 次への備え（未来に向けた取組） 310,513,316円

事業名	担当課	金額	状況
学習支援事業（学校の臨時休業に備えた学習用ソフト導入・ポケットwifi整備、教育用PC、電子黒板等購入）	学校教育課、広報課	228,784,763	R2
公民館を拠点とした地域コミュニティスポーツ振興事業	生涯学習課	2,093,157	R2
多拠点居住推進事業	ハブ都市・新幹線課	1,000,000	R2
公共交通事業（路線バス等運行、デマンドタクシー実証運行）	企画政策課	15,650,830	R2
公共的空間安全・安心確保事業（多機能テント等購入、テント架台撤去、水路改修、キャンプ場ロッジ改修等）	生涯学習課、公園課	10,418,785	R2
光ファイバ整備促進事業（国庫事業の市負担補填）	広報課	22,203,000	R2繰越
公共的空間安全・安心確保事業（公民館リモート環境整備、避難所消耗品購入等）	生涯学習課、防災減災課	17,303,738	R3
乳待坊公園インターネット環境整備事業	公園課	1,637,900	R3
ICT教育推進事業	学校教育課	9,537,000	R3
武雄市スポーツ振興事業	スポーツ課	1,884,143	R3

5 返還額（事業費精算による） 7,289,826円

※R4年度事業分

新幹線でGOTO武雄キャンペーン事業、自治公民館等トイレ洋式化事業、子育て世帯応援給付金事業、プレミアム商品券事業、公共交通利用促進事業、高齢者自動車燃料券交付事業、武雄市事業継続支援金事業 武雄市新型コロナウイルス感染症対応学校給食費補助金、物価高騰に係る保育所等給食費支援事業補助金、原油価格、物価高騰による影響を受ける福祉関連施設等への支援金交付、多子世帯に対する子育て生活支援事業、武雄市水稻肥料高騰緊急対策事業、武雄市飼料価格高騰緊急対策事業	476,498,000	R4
---	-------------	----